

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 19 日現在

機関番号：27104

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24249097

研究課題名(和文) 卒後1年目看護師の定着率向上を目的とした広域包括支援プログラムの開発研究

研究課題名(英文) A university-provided nursing skill support program aimed at improving the retention of newly graduated nurses in their first year of nursing.

研究代表者

松浦 賢長 (matsuura, kencho)

福岡県立大学・看護学部・教授

研究者番号：10252537

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 32,900,000円

研究成果の概要(和文)：卒後一年目の定着率向上のために臨床教育力向上、看護技術支援、大学教員メンター制の3つのプログラムを構築し効果検証を行った。臨床教育力向上は、本研究で作成したコーチングスキル尺度にて調査し得点の向上が見られた。看護技術支援は、病院施設外での実施により技術習得のみならず課題解決力や意識の向上に効果があった。大学教員メンター制は、相談できる場があることの安心、2年目以降こそが必要などの評価を受けた。離職願望の時期的変化がないこと、辞めたいと一度も思わなかった看護師の存在、強く辞めたいと思うものが約1割低下していることなどはプログラム導入の効果と評価でき、広域包括支援プログラムの有効性が示唆された。

研究成果の概要(英文)：To improve the retention of first-year nursing school graduates, we developed and evaluated the efficiency of three programs: one for improving clinical teaching skills, one for promoting nursing skills, and one for providing mentoring services by university. Scores obtained using a coaching skills rating scale showed an improvement in clinical teaching skills. In the nursing skills;promotion program, nurses were able gain practical skills as well as improve their problem-solving skills and raise awareness through workshops outside the hospital. The program for providing mentoring services gave nurses a place for consultation and therefore a feeling of safety, and came to be considered an essential program after the second year. Findings showed as well as an approximately 10% reduction in the proportion of nurses with a strong desire to quit. These findings illustrate the beneficial outcomes of the three programs, and suggest their utility as broad comprehensive support programs.

研究分野：母子保健

キーワード：新卒看護師 定着率向上 臨床教育力向上 看護技術力向上 大学教員メンター制

1. 研究開始当初の背景

2009年度に日本看護協会により実施された「看護職員需給状況調査」によると8.6%であった新卒看護職員の離職率は2013年度には7.5%となり、漸減傾向にあるものの未だに高い状態で推移している。また、新人看護職員の離職理由についての学校調査(日本看護協会, 2004)によると「基礎教育終了時点の能力と現場で求める能力とのギャップが大きい」「現代の若者の精神的未熟さや弱さ」「個々の看護職員を認める、褒めることが少ない職場風土」「交代制など不規則な勤務形態による労働負担が大きい」「現場の看護職員が新卒看護職員に教える時間がなくなっている」等の複数の要因が指摘されている。

2. 研究の目的

このような現状の中で、卒後1年目看護師の定着率向上のための広域包括支援プログラムを開発することを目的とし、以下の3つのプログラムの構築とそれらの仮説プログラムについて効果検証を行った。

1) 看護技術支援

新卒看護職者に対する大学が行う看護技術支援プログラムの開発。

2) 臨床教育力向上

新卒看護師の「対人関係の未熟さ」と臨床指導者の「コーチングスキル」双方の尺度の開発、開発した尺度を用いての臨床現場での現状の把握、ニーズを考慮したCSD研修会の企画・実施、研修参加による評価。なおCSDとは、臨床実習指導者・臨床スタッフ(Clinical Staff)の教育力を開発・向上(Develop)させる取り組みのことをさす造語である。

3) 大学教員メンター制

看護師の入職後1年以内の離職要因である「対人関係スキル」「リアリティ・ショック」「精神的脆弱性」の改善のための、卒業生の悩みや不安を支援する教員を卒業生のメン

ターとするモデルの構築。

4) 仮説プログラム効果検証

以上、3つのプログラムを4施設の協力を得て2015年度に実施し、効果の検証。

3. 研究の方法

1) 看護技術支援

目的を達成するために大きく4つの研究を行った。卒後6ヶ月目看護師への「看護技術に対する困りごと」調査。就職後1年目看護師の看護技術研修の希望調査。新人看護師教育に携わる看護管理者への新人看護師教育に関する調査。卒後1年目看護師に対して大学教員が共同して開発した看護技術力向上を目指す1年間の技術支援プログラムの介入効果を調査。

2) 臨床教育力向上

“対人関係スキル”と“コーチングスキル”を包括した尺度開発と研修会の実施と評価。

3) 大学教員メンター制

教員を対象とする卒業生との関わりに関する量的調査、教員・卒業生を対象に卒後の関わり等や大学教員によるメンター制度導入に対する期待等に関する聞き取り調査、メンター制度のガイドラインと対応マニュアルの作成、メンター制へのアクセスのためホームページ作成、メンター制度紹介のためのパンフレット作成、メンター制度に対する評価の6項目を行った。

4) 仮説プログラム効果検証

効果検証は、新卒1年目看護師を対象とし離職願望の状況、看護技術力向上に関する支援、スタッフの指導態度、メンタリング支援についてアンケート調査を実施。その概要を図1に示す。

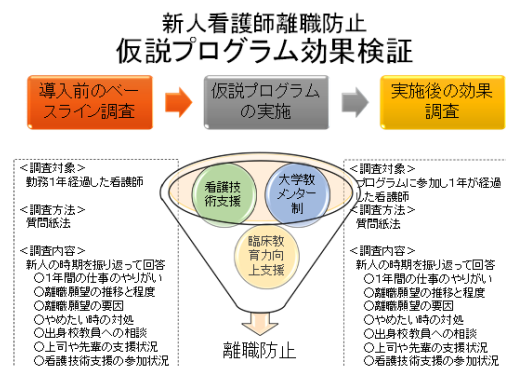


図1. 仮説プログラム概要図

4. 研究成果

1) 看護技術支援

新卒看護師の看護技術に関する困りごとの要因を明らか(図2)にし、新卒看護師が希望する看護技術項目を明らかにした。

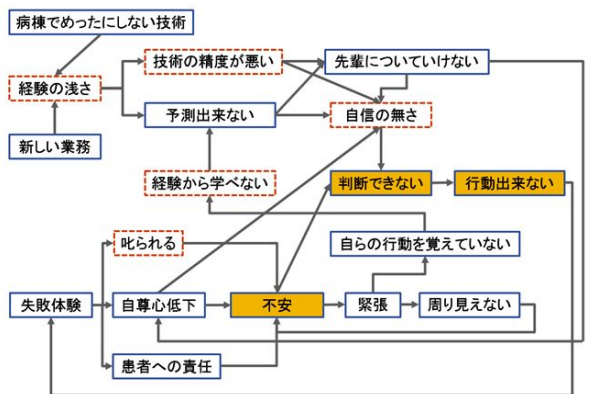


図2. 6ヶ月目の新卒看護師の看護技術に関する困りごとモデル。

また、看護管理者に対するインタビューから新人看護師に期待する能力とその節目となる時期を明らかにした。これらの結果から、大学が実施する新卒看護職者に対する看護技術支援プログラム(図3)を作成し、その効果について評価を行った。

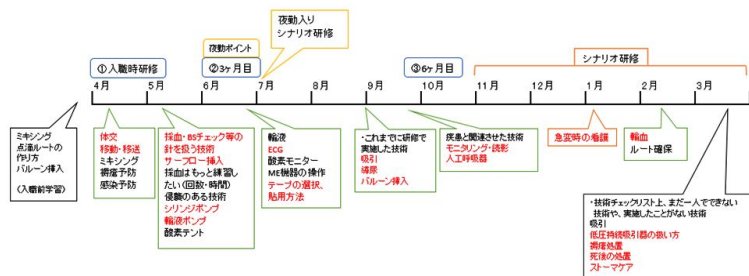


図3. 看護技術支援プログラム。

本プログラムは、技術向上のみならずインシデント防止に意識が向くことが分かった。支援を受けた新卒看護師の満足度は非常に高いことから不安の軽減につながっていたと考える。

2) 臨床教育力向上

(1) 指導者のコーチングスキル尺度の開発

「聴く(傾聴する)力」「観察する力」「質問(発問)する力」「伝達力(思ったことを伝える)」「積極性(指導者のポジティブな考え・自信を持つ)」の5つのカテゴリを抽出し、35項目からなる調査用紙を作成。

新人看護師の教育を担当する看護師と2年

目看護師を対象として、新人教育の現状や思い等について調査を実施し、両者の考える指導力について内容分析を行い70項目に追加修正した

(2) 臨床現場の現状把握としてアンケート調査を行い因子分析した結果、「新人看護師の理解の促進」「具体的な指導方法」「指導態度」の3因子が抽出され、臨床教育力の向上には、「新人看護師の理解の促進」「具体的な指導方法」「指導態度」について講義と事例検討を行う研修の構成とした。

(3) ニーズを考慮したCSD研修会の企画・実施として、5施設の協力を得て、実習指導者とプリセプターに対して、講義を90~120分を行い、2週間後にワールドカフェ方式による事例検討のワークを実施した。

(4) 研修参加による評価

研修前後に70項目調査を実施し、変化を確認。その結果、「はい」「いいえ」で答えられないオープン型質問をしている」と「私は指導力に自信がある」で有意差がみられ、具体的な指導方法を身につけ、自己効力感を高めたことが示唆された。

(5) 今後の課題

今後は、簡便な質問項目の精選と尺度の妥当性の検証を行うことが課題である。

3) 大学教員メンター制

卒業生は教員に対し、看護技術や専門領域に関する相談等を希望しているものの、遠方、職場に慣れることで精一杯で訪問できない葛藤を抱えていることが明らかになった。そこでメンター制度のモデル構築では教員、卒業生ともに、アクセスしやすい顔が見えるメンター紹介 教員へのガイドライン作成とメンター同士が相談できるシステムの作成を行い研究協力病院で実施した。

調査では「興味を持てた」が43.0%、「卒業後2年目以降も必要」が59.0%あり、在学中からの制度の紹介、メンター教員の増員、2年目以降の看護師も対象とするなど、大学教

員が担う役割が課題となった。

4) 仮説プログラム効果検証

仮説プログラム導入後の調査では、離職願望の時期的な変化がないこと、辞めたいと一度も思わなかった看護師の存在、強く辞めたいと思うものが約1割低下していること、出身校の教員への相談者が多いことなどは、仮説プログラム導入の効果と評価できる。

5. 主な発表論文等

[学会発表](計18件)

北川明 他：新人看護師の看護技術習得支援プログラムを考える。第35回日本看護科学学会学術集会，平成27年12月5日～6日，広島国際会議場，広島市文化交流会館，JMSアステールプラザ（広島県広島市）

児玉裕美 他：大学教員と外部認定看護師との協働企画による1年目看護師研修の効果。第35回日本看護科学学会学術集会，平成27年12月5日～6日，広島国際会議場，広島市文化交流会館，JMSアステールプラザ（広島県広島市）

岡田なぎさ 他：1年目看護師へのシミュレーション研修の評価 - ピアカウンセリング効果と自己研鑽への動機づけの検討 - 。平成27年12月5日～6日，広島国際会議場，広島市文化交流会館，JMSアステールプラザ（広島県広島市）

田出美紀 他：大学教員によるメンター制導入に向けてのモデル構築の検討 - 教員と卒業生の比較による支援体制の考察 - 。平成27年12月5日～6日，広島国際会議場，広島市文化交流会館，JMSアステールプラザ（広島県広島市）

木村涼平 他：大学教員によるメンター制導入に向けてのモデル構築の検討 - 卒業生との交流からみるメンターの介入時期の検討 - 。平成27年12月5日～6日，広島国際会議場，広島市文化交流会館，JMSアステールプラザ（広島県広島市）

EmikoNakashima : Current State of Cultivation of New Graduate Nurses: Comparison of Number of Years of Experience of Senior Nurses. 第2回国際ケアリング学会，平成27年11月7日～8日，日本赤十字看護大学（東京都渋谷区）

HitomiTsukahara : The Current State of Guidance for New Graduate Nurses: From Interviews with Nurses Who are Responsible for the Education of New Graduate Nurses.

第2回国際ケアリング学会，平成27年11月7日～8日，日本赤十字看護大学（東京都渋谷区）

TsuyakoHidaka : The Nursing Skills Supporting Program Developing by Faculty Members for Newly Graduated Nurses to Improve their Retention Rate of the Hospital: The Effects of Using Technical Training and Scenario Training to Improve their Nursing Skills. 第2回国際ケアリング学会，平成27年11月7日～8日，日本赤十字看護大学（東京都渋谷区）

AkiraKitagawa : Development of a Model That Supports Technical Education for New Nurses. 第2回国際ケアリング学会，平成27年11月7日～8日，日本赤十字看護大学（東京都渋谷区）

NorikoTeruya, YokoSunagawa : The Educational Effect of Scenario-based Simulation Training for New Graduate Nurses to Recognize and Respond to a Deteriorating Patients. 第2回国際ケアリング学会，平成27年11月7日～8日，日本赤十字看護大学（東京都渋谷区）

児玉裕美 他：1年目看護師を対象に看護大学教員が行う看護技術支援 - 「急変時の看護」のシナリオ研修の効果 - 。第34回日本看護科学学会学術集会，平成26年11月29日～30日，名古屋国際会議場（愛知県名古屋市）

佐藤亜紀 他：1年目看護師に対するアクティブラーニングの展開と効果 - 大学教員と認定看護師による協働研修 - 。第34回日本看護科学学会学術集会，平成26年11月29日～30日，名古屋国際会議場（愛知県名古屋市）

中嶋恵美子 他：新人看護師の早期離職予防 - 卒後2年目看護師へのインタビューから - 。第34回日本看護科学学会学術集会，平成26年11月29日～30日，名古屋国際会議場（愛知県名古屋市）

二重作清子 他：大学教員によるメンター制導入に向けてのモデル構築の検討 - 卒後1年目看護師が教員と行っている交流状況 - 。第34回日本看護科学学会学術集会，平成26年11月29日～30日，名古屋国際会議場（愛知県名古屋市）

山崎不二子 他：大学教員によるメンター制導入に向けてのモデル構築の検討 - 教員が捉えた卒業生が求める交流とその対応 - 。第34回日本看護科学学会学術集会，平成26年11月29日～30日，名古屋国際会議場（愛

知県名古屋市)

増満 誠 他：大学教員によるメンター制導入に向けてのモデル構築の検討 - メンター制導入に対する教員の展望と懸念 - .第34回日本看護科学学会学術集会，平成26年11月29日～30日，名古屋国際会議場（愛知県名古屋市）

北川明 他：新人看護師の看護技術習得支援プログラムを考える．第34回日本看護科学学会学術集会，平成26年11月29日～30日，名古屋国際会議場（愛知県名古屋市）

北川明 他：新人看護師の看護技術習得支援プログラムを考える．第33回日本看護科学学会学術集会，平成25年12月7日，大阪国際会議場（大阪府大阪市）

〔その他〕

ホームページ等

<http://caring-island.net/mentor.html>

<http://caring-island.net/kenkyu.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松浦 賢長 (MATSUURA, Kencho)

福岡県立大学・看護学部・教授

研究者番号：10252537

(2) 研究分担者

砂川 洋子 (SUNAGAWA, Yoko)

琉球大学・医学部・教授

研究者番号：00196908

宇座 美代子 (Uza, Miyoko)

琉球大学・医学部・教授

研究者番号：00253956

照屋 典子 (TERUYA, Noriko)

琉球大学・医学部・助教

研究者番号：10253957

金城 芳秀 (KINJO, Yoshihide)

沖縄県立看護大学・看護学部・教授

研究者番号：40291140

渡久山 朝裕 (TOKUYAMA, Tomohiro)

沖縄県立看護大学・看護学部・准教授

研究者番号：40237079

謝花 小百合 (JYAHANA, Sayuri)

沖縄県立看護大学・看護学部・講師

研究者番号：30647003

金城 祥教 (KINJO, Yoshinori)

名桜大学・健康科学部・教授

研究者番号：00205056

塚原 ひとみ (TSUKAHARA, Hitomi)

福岡大学・医学部・教授

研究者番号：20555403

中嶋 恵美子 (NAKASHIMA, Emiko)

福岡大学・医学部・教授

研究者番号：30461536

小田 正枝 (ODA, Masae)

国際医療福祉大学・保健医療学部・教授

研究者番号：80194562

上田 智之 (UEDA, Tomoyuki)

国際医療福祉大学・保健医療学部・助教

研究者番号：70586320

正野 逸子 (SYONO, Itsuko)

産業医科大学・産業保健学部・教授

研究者番号：80280254

岡田 なぎさ (OKADA, Nagisa)

産業医科大学・産業保健学部・講師

研究者番号：20341521

児玉 裕美 (KODAMA, Hiromi)

産業医科大学・産業保健学部・助教

研究者番号：80584515

二重作 清子 (FUTAESAKU, Kiyoko)

純真学園大学・保健医療学部・教授

研究者番号：70321221

一原 由美子 (ICHIHARA, Yumiko)

純真学園大学・保健医療学部・教授

研究者番号：50321261

日高 艶子 (HIDAKA, Tsuyako)

聖マリア学院大学・看護学部・教授

研究者番号：50199006

石本 祥子 (ISHIMOTO, Sachiko)

聖マリア学院大学・看護学部・講師

研究者番号：30538583

小浜 さつき (Obama, Satsuki)

聖マリア学院大学・看護学部・講師

研究者番号：20580731

岡村 純 (OKAMURA, Jun)

日本赤十字九州国際看護大学・看護学部・教授

研究者番号：60316213

小川 里美 (OGAWA, Satomi)

日本赤十字九州国際看護大学・看護学部・

准教授

研究者番号：80442010

小手川 良江 (KOTEGAWA, Yoshie)
日本赤十字九州国際看護大学・看護学部・

助教

研究者番号：9034154

前田 三枝子 (MAEDA, Mieko)
福岡女学院看護大学・看護学部・教授
研究者番号：30290117

山崎 不二子 (YAMASAKI, Fujiko)
福岡女学院看護大学・看護学部・教授
研究者番号：20326482

松岡 緑 (MATSUOKA, Midori)
福岡女学院看護大学・看護学部・教授
研究者番号：00108763

田出 美紀 (TAIDE, Miki)
福岡女学院看護大学・看護学部・助教
研究者番号：80526997

門司 真由美 (MONJI, Mayumi)
福岡女学院看護大学・看護学部・助教
研究者番号：80527002

安酸 史子 (YASUKATA, Fumiko)
防衛医科大学校・内科学・教授
研究者番号：10254559

北川 明 (KITAGAWA, Akira)
防衛医科大学校・精神科学・准教授
研究者番号：20382377

生野 繁子 (SHONO, Shigeko)
九州看護福祉大学・看護福祉学部・教授
研究者番号：40249694

飯野 英親 (IINO, Hidechika)
西南女学院大学・保健福祉学部・教授
研究者番号：20284276

鶴田 早苗 (TSURUTA, Sanae)
活水女子大学・看護学部・教授
研究者番号：30188643

川本 利恵子 (KAWAMOTO, Rieko)
九州大学・医学研究科・教授
研究者番号：40144969

松本 幸子 (MATSUMOTO, Sachiko)
長崎県立大学・看護栄養学部・教授
研究者番号：70199868

増満 誠 (MASUMITSU, Makoto)
福岡県立大学・看護学部・講師
研究者番号：10381188

原田 直樹 (HARADA, Naoki)
福岡県立大学・看護学部・講師
研究者番号：80598376

佐藤 香代 (SATO, Kayo)
福岡県立大学・看護学部・教授
研究者番号：8017073

宮城 由美子 (MIYAGI, Yumiko)
福岡県立大学・看護学部・准教授
研究者番号：20353170

田中 美樹 (TANAKA, Miki)
福岡県立大学・看護学部・講師
研究者番号：60405561

三並 めぐる (MINAMI, Meguru)
福岡県立大学・看護学部・講師
研究者番号：20612948

阿部 眞理子 (ABE, Mariko)
福岡県立大学・看護学部・講師
研究者番号：30734165

清水 夏子 (SHIMIZU, Natsuko)
福岡県立大学・看護学部・助教
研究者番号：80468305

檜橋 明子 (NARAHASHI, Akiko)
福岡県立大学・看護学部・助教
研究者番号：50438264

(3)連携研究者

石田 智恵美 (ISHIDA, Chiemi)
福岡県立大学・看護学部・准教授
研究者番号：50352349

山住 康恵 (YAMAZUMI, Yasue)
防衛医科大学校・看護学科・講師
研究者番号：30553052

木村 涼平 (KIMURA, Ryohei)
純真学園大学・看護学科・助教
研究者番号：00742264